

No title available

Publication number: JP3054251 (Y2)

Publication date: 1991-11-29

Inventor(s):

Applicant(s):

Classification:


- international: **E04D13/068; E04D13/064;** (IPC1-7): E04D13/06

- European:

Application number: JP19860200104U 19861226

Priority number(s): JP19860200104U 19861226

Also published as:

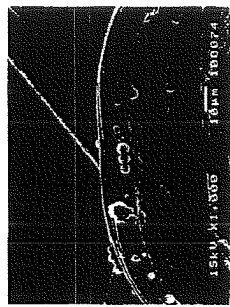
 JP63104524 (U)

Abstract not available for **JP 3054251 (Y2)**

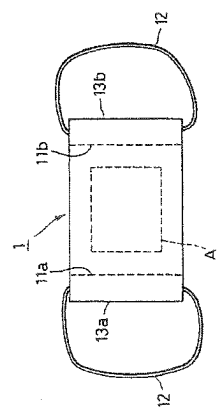
Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(3)

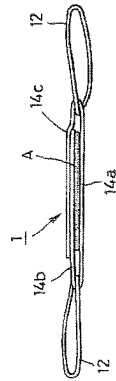
【図1】



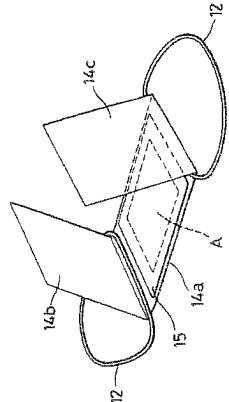
【図2】



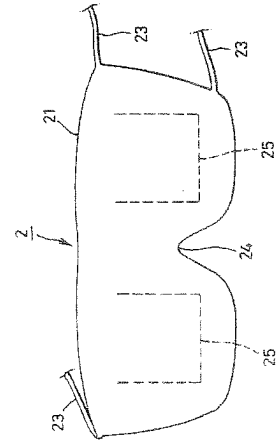
【図3】



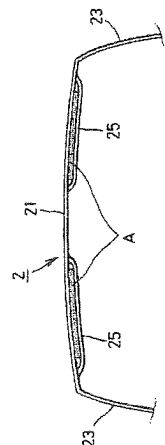
【図4】



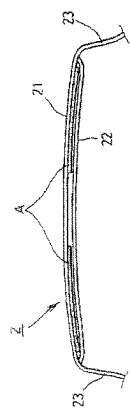
【図5】



【図6】



【図7】



(4)

【手続補正書】

【提出日】平成10年5月26日

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図1】本考案の感圧性芳香シートの一例の電子顕微鏡

写真である。

【図2】本考案の口部用マスクの一例を示す正面図であ

る。

【図3】本考案の口部用マスクの一例を示す上面図であ

る。

【図4】本考案の口部用マスクの解体状態の一例を示す

斜視図である。

【図5】本考案のアイマスクの一例を示す斜視図であ

る。

【図6】図4のアイマスクの上面図である。

【図7】本考案のアイマスクの他の一例を示す上面図で

ある。

【符号の説明】

* A	感圧性芳香シート
1	口部用マスク
2	アイマスク
11a, 11b	表裏縫合部
12	組
13a, 13b	折り返し部
14a	口部用マスク表地
14b, 14c	口部用マスク裏地
15	ポケット
21	アイマスク表地
22	アイマスク裏地
23	鼻部切欠部
24	組
25	ポケット

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

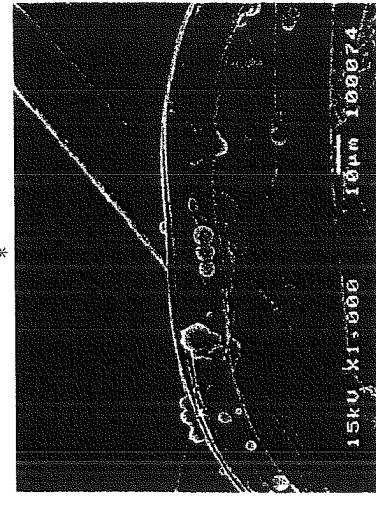
【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正内容】

【図1】

*



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、感圧性芳香シートおよびそれを用いたマスクに関するものであって、より詳しくは、ハーブ油を充填したマイクロカプセルを不織布等の多孔性シートの表面ないし素材の空隙に担持させ、マイクロカプセルの破壊に伴ってハーブ油が芳香を発するように構成された感圧性芳香シートおよびそれを装着した、口部用マスクまたはアイマスクに関する。

【0002】**【従来の技術およびその問題点】**

従来から、女性の身だしなみとして、芳香を発する素材をポケットやハンドバックに忍ばせることが行われている。

芳香を発する素材としては、シート状あるいは発泡体などに芳香剤を含浸させたものが一般に用いられている。

【0003】

また、一方で、植物の生命のエッセンスであるエッセンシャルオイルは、精油ともいわれ、それから発散される香りは、美容や健康に役立てる自然療法、いわゆるアロマセラピーとして、動物、特に人間に対して心身両面にさまざまな働きをすることが解明されてきている。

このエッセンシャルオイルは、一般にはハーブ油として知られている。

【0004】

その療法としては、香りを鼻から吸収して脳に働きかける芳香浴と、皮膚から吸収させて血液やリンパ液に送り込むアロマッサージが知られている。

アロママッサージとは、マッサージオイルに微量のエッセンシャルオイルを添加したものを用いて顔、腹部、脚部などを通常の方法でマッサージするもので、マッサージの刺激によって、血液、リンパ液の流れが良くなり、体内に溜った老廃物の排泄が促進されるものである。

【0005】

また、芳香浴は、バスタブにぬるめのお湯を張り、これにエッセンシャルオイ

ルを数滴添加して入浴するもので、皮膚から浸透したエッセンシャルオイルが、同様に血液、リンパ液の流れによって運ばれ、体内の各器官に働きかけて身体内面からの浄化作用を促進する。

【0006】

その際、添加するハーブ油の種類によって、発散される香りが精神面では神経の緊張を和らげリラックスさせて精神的疲労を和らげたり、集中心を高めて記憶力を向上させたり、更に、身体の間では、ホルモンのバランスを調整し、または免疫機能を高めたりなどのさまざまな効能が知られている。

【0007】

また、近年社会環境が複雑になり、人間はストレスによって心身両面から毒されている実情があるが、その解消にもアロマセラピーは極めて有効であり、上記のマッサージオイル、入浴剤、あるいは香をたいてその香りによって精神状態を鎮静化させるなどの方法を簡単にできるようにしたものが一般家庭にも入り込んできている。

【0008】**【考案が解決しようとする課題】**

ところが、エッセンシャルオイルは、その種類にもよるが、肌に直接触れると発疹を生じたり、皮膚刺激が強いなどの問題があり、その取扱には細心の注意を払わなければならないことが多く、必ずしも誰でもが手軽にアロマセラピーを行えるというものでもない。

また、従来用いられてきた芳香剤は本来揮発性のものであるために、芳香を長時間にわたって保持するということは、なかなか困難なことである。

【0009】**【課題を解決するための手段】**

そこで、本考案者らは、長期にわたって芳香を発し得る素材を求め、さらにその応用に関して長年にわたって研究を重ねてきたところである。

その結果、ハーブ油をマイクロカプセルに充填したものを不織布や多孔紙などの通気性シートの表面ないし素材空隙に担持させることにより、得られたシートを指でつまんで軽く力をかけることによりマイクロカプセルの一部が破裂して、

内部に封じ込められているハーブ油が芳香を発することを知見した。さらに、芳香の発散が弱くなった時には、また、同じ作業を繰り返すことにより、未破裂のカプセルが破裂して再び芳香を発散するために、長期にわたってハーブ油の芳香を楽しむことができることになる。

【0010】

また、本考案は、この感圧性芳香シートをマスク本体の少なくとも一部に付設または添設したものを口部あるいは目部にマスクをするだけで、簡単に、しかも安全に、アロマセラピーを行うことを可能にしたものであり、歩行中あるいは仕事中にも心身両面での諸々の改善をなし得る点に重要な特徴がある。

【0011】

すなわち、本考案によれば、通気性シートの表面ないし素材空隙にハーブ油を充填したマイクログラブセルを担持させたことを特徴とする感圧性芳香シートが提供される。

【0012】

また、本考案によれば、マスク本体の少なくとも一部に、上記感圧性芳香シートを付設または添設したマスクが提供される。

【0013】

また、本考案によれば、前記マスクが口部用マスクまたはアイマスクである上記マスクが提供される。

【0014】

また、本考案によれば、前記ハーブ油が、ラベンダー (Lavender)、ラバンジン (Lavandin)、パイン (Pine)、シトロネラ (Citronella)、クラリセージ (Clary Sage) からなる群より選ばれたものである心身疲労回復用の上記マスクが提供される。

【0015】

また、本考案によれば、前記ハーブ油が、フェネル (Fennel)、フランキンセンス (Frankincense)、スターアニス (Star Anise)、スペアミント (Spearmint)、シナモン (Cinnamon)、サントキシラム (Zantoxylum) からなる群より選ばれたものである

元気を与える上記マスクが提供される。

【0016】

また、本考案によれば、前記ハーブ油が、ユーカリ (Eucalyptus)、ローズマリー (Rosemary)、レモン (Lemon)、フレンチマリーゴールド (French Mar)、パチュリー (Patchouli)、パルマローザ (Palmarosa)、ニアウリ (Niaouli)、バジル (Basil)、セージ (Sage)、クローブ (Clove) からなる群より選ばれたものである集中力を高めるための上記マスクが提供される。

【0017】

また、本考案によれば、前記ハーブ油が、ローズウッド (Rosewood)、レモングラス (Lemongrass)、マンダリン (Mandarin)、ミルラ (Myrrh)、ライム (Lime)、リツエア (Litsea)、ゼラニウムローズ (Geranium Rose) からなる群より選ばれたものである精神高揚用の上記マスクが提供される。

【0018】

また、本考案によれば、前記ハーブ油が、アミリス (Amyris)、イランイラン (Ylang-Ylang)、エレミ (Elemi)、オレンジ (Sweet Orange)、カモミール (Chamomile)、クラリセージ (Clary Sage)、サイプレス (Cypress)、サンダルウッド (Sandalwood)、シダーウッド (Cedarwood)、ジャスミン (Jasmine)、スパイクラベンダー (Spike Lavender)、セージ (Sage)、ベンゾイン (Benzoin)、プチグレン (Petit grain)、コパイバ (Copiba balsam) からなる群より選ばれたものである鎮静用の上記マスクが提供される。

【0019】

また、本考案によれば、前記ハーブ油が、カモミール (Chamomile)、グアヤックウッド (Guaiacwood)、ジャスミン (Jasmine)、ベンゾイン (Benzoin)、マージョラム (Marjoram)、ネロリ (Neroli) からなる群より選ばれたものである上記マスクが提供される。

【0020】

【考案の実施の形態】

以下、本考案について、実施例を図面を参照して詳細に説明する。

本考案の感圧性芳香シートは、素材シートとして、織布、不織布あるいは多孔紙などのようにシートの素材間に空隙を有する通気性シートを用いる。

【0021】

本考案において重要なことは、上記通気性シートの表面ないし素材空隙にハーブ油を充填したマイクロカプセルを担持させることにある。

従来の芳香シートは、シート状物にハーブ油などの芳香剤を含浸させただけのものであるために、芳香剤の成分が揮発してしまえば、それ以上芳香を楽しむことはできず、したがって、寿命が短いのが欠点であった。

【0022】

しかるに、本考案のようにハーブ油をマイクロカプセルに充填したものを通気性シートの表面ないし素材空隙に担持させたものは、該シートを指でつまんだり、手のひらに挟んで圧力をかけたり、あるいはテーパーなどの上において上から軽くたたくなど任意の加圧手段を加えることにより、マイクロカプセルの一部が破裂して中に充填されているハーブ油があふれ出て通気性シートに含浸され、その時点で初めて芳香を発することになる。

【0023】

また、芳香が経時に伴って弱まったり消失した時は、再び任意の加圧手段を加えることにより、残りのマイクロカプセルの一部が破裂して芳香を発することになる。

本考案者らの実験によれば、上記マイクロカプセルを担持させた5cm×6cmの不織布の場合、芳香消失時に加圧手段を加えることにより、驚くべきことに15日間にわたって芳香を維持することができた。

【0024】

つまり、本考案の感圧性芳香シートは、芳香の発散開始時期をコントロールできるだけでなく、芳香消失後もシートを加圧するだけで長期にわたって芳香を維持することができるという優れた特徴を持つものである。

図1に、不織布にハーブ油を充填したマイクロカプセルを担持させた本考案の感圧性芳香シートの電子顕微鏡写真を示す。

この図1の写真からも明らかなように、不織布を構成するフィラメントの表面ないし各フィラメントの空隙に数 μ のマイクロカプセルが多数担持されている状態がはっきりと理解される。

通気性シートに対してマイクロカプセルを担持させるには、自体公知の方法によって容易になし得る。

【0025】

本考案においては、上記感圧性芳香シートをマスクの少なくとも一部に付設または添設することにより、アロマデラピーの効用を備えた口部用マスクまたはアイマスクが提供される。

図2に、感圧性芳香シートを添接した口部マスクの一態様を示した。

【0026】

この口部用マスクは、前記折り返し部において、耳掛け用の紐12が内包され、マスク本体を構成する表地14aと裏地14b、14cは、11a、11b部において縫製されているが、図3に示すように、折り返し部13a、13bから折り返して14b、14cを重ねただけのままで良い。

【0027】

いずれにしても、ハーブ油がマイクロカプセルからあふれ出て含浸されたシート状物Aは、皮膚には直接接触しないことが望ましく、本実施例においては14aと14bの間に収納される。この際、シート状物Aは、単に14aと14bの間にはさまれただけでも良いし、図4に示すように、表地14aあるいは裏地14bのいずれかにポケット15を設けてその中に収納してもよい。

また、マスク本体の内側に代えのガーゼなどを当てる場合には、その間にシート状物をはさんでもよい。

【0028】

次に、本考案のマスクをアイマスクとして用いる場合の実施例について説明する。

図5は、本考案のアイマスク2の一例の斜視図であり、図6は、その上面図で

ある。この例においては、表地21の中央下方に鼻の形に切り欠き部24が形成されており、両サイドには紐23を付設し、その裏側には、ハーブ油を含浸したシート状物Aを収納するポケット25が形成されている。本考案のアイマスクにおいても、上記ポケット25は必ずしも設ける必要はなく、図7に示すように、表地21と裏地22の間に前記感圧性芳香シートをはさんだ状態で収納してもよい。

【0029】

本考案における通気性シートは、ハーブ油が含まれるものであることが望ましく、不織布が最も好ましく用いられる。また、その大きさは特に限定されるものではないが、口部用マスクの場合は、シートが一枚であれば3cmないし5cm×4cmないし6cm程度の大きさで十分であり、これより小さい複数枚のシート片を用いてもよい。ハーブ油充填のマイクログラブセルの担持量もとくに制限されるものではない。

【0030】

次に、マイクログラブセルに充填されるハーブ油について説明する。

本考案において用いているハーブ油はいずれも市販されているものであり、その中から目的に応じて、適性のハーブ油を採択して用いるものである。

【0031】

まず、本考案の口部用マスクを心身疲労回復のために装着しようとする場合は、ラベンダー (Lavender)、ラバンジン (Lavandin)、ペイン (Pine)、シトロネラ (Citronella)、クラリセージ (Clary Sage) からなる群より選ばれたものが好適に用いられる。

これらのハーブ油は、中枢神経系のバランスを正しく調整し、心身にリラクセーションを与えてくれる。

本考案者らの実験によれば、心身疲労時に上記ハーブ油充填の感圧性芳香シートを破裂させ、これを添付したマスクを1時間装着しただけで、顕著な精神状態の改善が見られた。

【0032】

次に、本考案の口部用マスクを心身両面に元気が欲しい時に装着しようとする

場合は、フェネル (Fennel)、フランキンセンス (Frankincense)、スターアニス (Star Anise)、スベアミント (Spearmint)、シナモン (Cinnamon)、サントキシラム (Zantoxylum) からなる群より選ばれたハーブ油を含浸したシート状物を用いることが望ましい。

【0033】

また、集中力を高め、頭脳を明晰にし、記憶力を向上させたい場合には、ユーカリ (Eucalyptus)、ローズマリー (Rosemary)、レモン (Lemon)、フレンチマリーゴールド (French Mar)、パチュリー (Patchouli)、パルマローザ (Palmarosa)、ニアウリ (Niaouli)、バジル (Basil)、セージ (Sage)、クローブ (Clove) からなる群より選ばれたハーブ油を含浸したシート状物を用いることが望ましい。このタイプは、受験生などにはとくに推奨できるものであり、とくに本考案者の実験によれば、ニアウリを用いたものの効果が著しい。

【0034】

また、気分が優れず、精神を高揚したい時には、ローズウッド (Rosewood)、レモングラス (Lemon grass)、マンダリン (Mandarin)、ミルラ (Myrrh)、ライム (Lime)、リツェア (Litsea)、ゼラニウムローズ (Geranium Rose) からなる群より選ばれたハーブ油を含浸したシート状物が優れた効果を発揮する。

【0035】

更に、精神状態を鎮静させたい時には、アミリス (Amyrib)、イランイラン (Ylang-Ylang)、エレミ (Elemi)、オレンジ (Sweet Orange)、カモミール (Chamomile)、クラリセージ (Clary Sage)、サイプレス (Cypress)、サンダルウッド (Sandalwood)、シダーウッド (Cedar wood)、ジャスミン (Jasmine)、スイパイクラベンダー (Spike Lavender)、セージ (Sage)、ベンゾイン (Benzoin)、プチグレン (Petigrain)、コパイバ (Copiba balm) からなる群より選ばれたハ

ーブ油を含浸したシート状物が興奮状態の精神を鎮静させてくれる。

【0036】

また、アイマスクに用いるハーブ油としては、催眠効果の優れたものがよく、カモミール (Chamomile)、グアヤックウッド (Guaiacwood)、ジャスミン (Jasmine)、ベンズイン (Benzoin)、マージョラム (Marjoram)、ネロリ (Neroli) からなる群より選ばれたハーブ油を用いたシート状物を好適に用いられる。

【0037】

なお、これ以外にも、それぞれの特性を利用したハーブ油を任意に選択し、シート状物に含浸して用いることができる。

【0038】

【考案の効果】

本考案によれば、従来のアロマセラピーのように、全身をマッサージしたり、ハーブ油を滴下したバスタブに使うなどの面倒なことがなく、通気性シートの表面ないし素材間隙に、ハーブ油を充填した感圧性芳香シートを添接した口部用マスクまたはアイマスクを装着するだけで、ストレスによってバランスを欠いた状態の精神や、心身の疲労などを有効に改善し、安定な精神状態に改善することができる。

【提出日】平成10年5月26日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正内容】

【0027】

いずれにしても、本考案において用いられる感圧性芳香シートAにおいて、マイクロバセルの破裂によって滲み出したハーブ油は、皮膚には直接接触しないことが望ましく、本実施例においては14aと14bの間に収納される。この際

シート状物Aは、単に14aと14bの間にはさまただけでも良いし、図4に示すように、表地14aあるいは裏地14bのいずれかにポケット15を設けてその中に収納してもよい。

また、マスク本体の内側に代えのガーゼなどを当てる場合には、その間にシート状物をはさんでもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正内容】

【0028】

次に、本考案のマスクをアイマスクとして用いる場合の実施例について説明する。

図5は、本考案のアイマスク2の一例の斜視図であり、図6は、その上面図である。この例においては、表地21の中央下方に鼻の形に切り欠き部24が形成されており、両サイドには紐23を付設し、その裏側には、上記感圧性芳香シートAを収納するポケット25が形成されている。本考案のアイマスクにおいても、上記ポケット25は必ずしも設ける必要はなく、図7に示すように、表地21と裏地22の間に前記感圧性芳香シートをはさんだ状態で収納してもよい。